

令和2年度「新潟の産業・企業を知る講座等」実施報告書

1.「地域振興論」授業

(1) 目的

「地域振興論」では、地域振興の在り方について、総合的な視野から講義を行う。授業では外部講師を含む様々な業界の講師によりオムニバス方式で実施する。また、新潟県の企業、自治体などを実際訪れるフィールドワークも行い、地域の産業についての教室での授業に加え、現場を目で見て学ぶことで、新潟県内への定住、就職促進に繋げる。

(2) 取組概要

○対象学年：2・3・4年生・聴講生（社会人）90人

○参加学生数：2年生 82名、3年生 3名、4年生 4名・聴講生（一般社会人）1名

○講義実施時期：令和2年9月18日から令和2年11月20日まで（全8回）

1回当たり90分

○見学実施時期：令和2年10月13日から令和2年12月20日まで（全6回）

1回当たり90～180分

○講師等

	実施日	企業名	役職・講師名	参加者数
1	令和2年9月18日		科目担当 梅比良 眞史 (講義の概要 ガイダンス)	71
2	令和2年9月25日(金)	雪の日舎	代表 佐藤 可奈子氏	75
3	令和2年10月2日(金)	バジュプレーン	専務 小田 芽久美氏	65
4	令和2年10月9日(金)	Luce e ombra	代表取締役 西村 遼平氏	68
5	令和2年10月16日(金)	柏崎市ものづくり振興課	課長 本間 和人氏	62
6	令和2年11月6日(金)	第四北越銀行	部長 小林 幹央氏	62
7	令和2年11月13日(金)	ブルボン	CSR室長 小保方 薫氏	52
8	令和2年11月20日(金)	PVK	社長 入澤 勇太氏	55
延べ合計数				510

○企業見学

	見学企業	実施日	参加者数
1	マルソー長岡新産 SLC	令和 2 年 10 月 13 日	6
2	柏崎市消防本部	令和 2 年 10 月 23 日	34
3	テック長沢	令和 2 年 12 月 11 日	12
4	阿部建設	令和 2 年 10 月 23 日	22
5	朝日酒造	令和 2 年 12 月 4 日	30
延べ合計人数			104

○企業の選定方法

県内の企業のなかから、学生の関心の高い業種、OB・OG が就職した企業といった観点から企業を選定した。

○内容

講師から「I ターン営農就職」、「ワークライフバランス」、「起業」、「製造業」、「フィンテック」、「CSR」、「スポーツ産業」等について話していただいた。質疑では、「企業選びの基準」や「企業の社会における役割」、「起業の心構え」といった質問が多く、学生は働きがいとか働き方といったことに関心が高いと考えられる。

企業見学では、柏崎市の代表的な企業である「阿部建設」「テック長沢」を見学した。両社とも、社長による企業紹介であったため、経営者による貴重な話を聞くことができた。

「柏崎市消防本部」見学は、業務内容や勤務体系等の話から、具体的な就職イメージを持つことが出来たことは、消防への就職に関心を持つ学生が多い本学にとって、良い機会となった。

柏崎市外の企業については、「マルソー株式会社」、「株式会社朝日酒造」を見学した。どちらも地域密着型であることから、新潟県内の就職を希望する学生が多い本学では、就職先の選択肢の一つとして参考にすることが出来た。

○取組の様子





(3) 事業効果等

実施後のアンケートでは、本取組により「地域に対する考え方が変わったか」「就職に対する意識が高まったか」との質問に対し、約 80%の学生が「大いにそうである」「そうである」と答え、県内企業への関心が高まったことが読み取れ、実際に企業で活躍している方から直接お話を聞くことは有効な取組であることがわかった。(アンケート詳細は(以下の各回アンケート及び別紙事後アンケート 1 を資料参照)

(質問)

Q1.あなたはこの授業を受けて、その内容を理解できましたか。

Q2.あなたはこの授業のテーマについて、感心を持ちましたか。

Q3.あなたはこの授業のテーマについて、理解が深まりましたか。

Q4.あなたはこの授業を受けて、地域に対する考え方が変化しましたか。

Q5.あなたはこの授業を受けて、就職に対する意識が高まりましたか。

2020地域振興論 各回アンケート																										
		Q1					Q2				Q3				Q4				Q5							
授業実施日	回答枚数	大いにそうである	そうである	どちらともいえない	そうではない	全くそうではない	大いにそうである	そうである	どちらともいえない	そうではない	全くそうではない	大いにそうである	そうである	どちらともいえない	そうではない	全くそうではない	大いにそうである	そうである	どちらともいえない	そうではない	全くそうではない	大いにそうである	そうである	どちらともいえない	そうではない	全くそうではない
2020年 9月18日	71	32	29	7	3		27	28	15	1		28	30	10	3		27	22	19	3		32	23	14	1	1
2020年 9月25日	75	43	27	3	1	1	39	31	4		1	34	34	6	1		35	29	9	1	1	33	33	8	1	
2020年10月2日	65	28	32	5			32	24	8	1		29	28	7	1		23	19	15	6	2	30	22	11	1	1
2020年10月9日	68	33	31	4			39	26	3			33	29	6			29	28	9	2		39	24	5		
2020年10月16日	62	25	26	9	2		24	24	11	3		26	23	10	3		25	24	9	4		25	23	12	2	
2020年11月6日	62	32	22	8			35	18	9			32	20	10			28	22	10	2		30	20	11	1	
2020年11月13日	52	28	22	2			34	15	2	1		28	17	6	1		32	15	4	1		29	20	1	2	
2020年11月20日	55	27	23	4	1		27	21	6	1		26	23	5	1		25	22	6	2		26	15	12	1	1
	510	248	212	42	7	1	257	187	58	7	1	236	204	60	10	0	224	181	81	21	3	244	180	74	9	3
		49%	42%	8%	1%	0.002	50%	37%	11%	1%	0%	46%	40%	12%	2%	0%	44%	35%	16%	4%	1%	48%	35%	15%	2%	1%

参加した学生からは「製造業など日常的には目に付かない業界の状況を知ることができて良かった」、「県内にもいろいろな企業あることが分かった」、「県内でも起業している事例があるといった意見があった。

また、学生から講義と関連した企業を見学するフィールドワークの希望が多くあったが、新型コロナウイルス対策のため、見学できる企業が減少し、また見学者数の制限があったりして、学生は原則1社のみの見学となったのが残念であった。

(4) 取組の情報発信実績

大学公式ツイッター ；

https://twitter.com/niigata_sandai/status/1354610968194469892

(5) 今後の取組について

学生に魅力的な県内企業があることを知ってもらうことや、自らのキャリア観育成に有効な取組と考えているので、引き続き実施を検討したい。

学生から「スポーツ分野の企業の話をもっと聞きたい」といった声があったため、次年度実施の際には考慮したい。

2.県内企業を知るための企業見学

①県内農業関連企業バスツアー

(1) 目的

新潟産業大学のアグリ・フードビジネス分野のゼミナールとして、この分野の産業とかわりの深いバナナ農園、養鶏場、わさび園、ユニット型植物工場・園芸施設を見学することによって、新潟県内の農業・食品産業の実態を知り、県内の地場産業に理解を深め、地域でのインターシップや就職活動につながるようにしたい。

(2) 取組概要

○対象学年・募集定員：3・4年生19人

○参加学生数：1年生 2人、3年生 11人、4年生 6人

○実施時期：令和2年9月17日（全1回）

9時半から16時半、1社当たり90分

○訪問先企業等

	実施日	企業名（業種）	参加者数
1	令和2年9月17日（木）	シモダ産業（株）シモダファーム （バナナ農園）（新潟県柏崎市）	19人
2	令和2年9月17日（木）	鎌田養鶏株式会社 （新潟県柏崎市）	19人
3	令和2年9月17日（木）	日本海石地わさび園 （新潟県柏崎市）	19人
4	令和2年9月17日（木）	株式会社ベジ・アビオ（園芸施設） （新潟県新潟市）	19人
延べ合計数			76人

○企業の選定方法

新潟産業大学のアグリ・フードビジネス分野のゼミナールとして、新潟県内の農業・食品産業の実態を知り、この分野の産業の現場を体験できるという観点から企業を選定した。

○取組の様子

2020年9月17日（木）の最初の訪問先のシモダ産業（株）のシモダファームでは、シモダ産業（株）の常務からバナナ農園の経営の趣旨、特色及び株式会社シモダ産業の環境問題への取り組みなどについて説明し、その後バナナ農園の見学を行った。新潟でのバナナの栽培は大変珍しく、学生たちは興味を持って見学し、現場で活発に質疑応答が行われた。

2番目の見学先の鎌田養鶏株式会社では、同社の社長が見学を案内、説明し、養鶏事情に対する理解を深めることができた。見学後に同社が経営するレストラン「至福の時」で鎌田養鶏場が生産した「養生卵」を使ったオムライスを試食し、日本の6次産業化について実体験した。

3番目の見学先の日本海石地わさび園では、同施設を経営する株式会社土佐工務店の社長が見学を案内、説明を行った。同施設で生産されたわさびを入れたまんじゅうの試食も行い、同施設で生産するわさび味の様々な食品について調べ、日本の6次産業化について実体験した。

4番目の見学先のベジ・アビオでは、代表が新潟の先端的園芸施設である同施設について案内、説明を行った。新潟県内には、先端技術を活用した園芸を実施している施設はまだ少ないため、見学した学生たちは大変興味深く説明を聞いている様子であった。

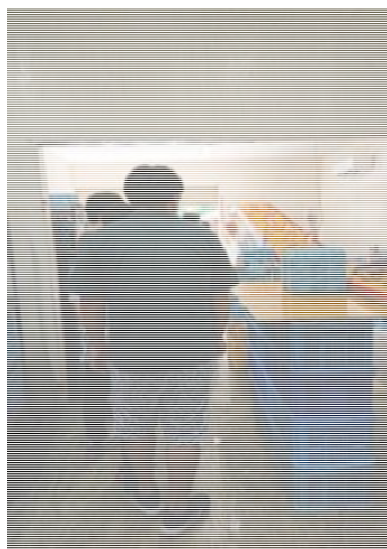
以上の四つの会社の見学を通して、学生たちが新潟県内の農業・食品産業の現場を実体験し、県内の農業と食品産業の現状を身近に知ることができる授業とすることができた。



シモダ産業（株）のシモダファーム（バナナ農園）見学



シモダ産業（株）のシモダファーム（バナナ農園）見学



鎌田養鶏場見学



鎌田養鶏場見学



日本海石地わさび園



日本海石地わさび園



株式会社ベジ・アビオ（園芸施設）見学



株式会社ベジ・アビオ（園芸施設）見学

（３）事業効果等

実施後のアンケート（アンケート 2 参照）では、本取組により県内企業への関心が高まったと答えた学生が多く、実際に企業を経営している方からお話を聞くことができる取組が有効であることがわかった。今回の見学に参加した４年生の中では、今回の見学をきっかけに関心を持ち、実際に新潟県内の農業関連会社への就職の内定を得た学生もいる。

（４）取組の情報発信実績

本取組については、新潟産業大学の公式ツイッター、新潟産業大学経済学部金ゼミの [Twitter](#)、引率教員金光林教授の facebook に掲載し、学内外への情報発信を図った。

【URL】

新潟産業大学 Twitter : https://twitter.com/niigata_sandai

金ゼミ Twitter : https://twitter.com/kimno_en

金光林 Facebook : <https://www.facebook.com/guanglin.jin1>

(5) 今後の取組について

「県内就職につながる新潟の産業・企業を知る講座」は、学生に新潟県内の企業と産業の魅力を知ってもらい、キャリア観育成に有効な取り組みと考えているため、来年度にも引き続き実施を検討し、さらに良い効果を上げる努力をしたい。

②明るい柏崎計画（(株)AKK プラス）関連企業関係者による講義（企業見学からの企画内容変更）

(1) 目的

県内企業から講師を招いた講演会を学内で開催し、県内企業の魅力についてお話いただくことで、学生の県内企業への関心を高める。

(2) 取組概要

○参加学生数：3年生9人、4年生4人

（内訳：まちづくり・地方行政分野専攻、権田恭子ゼミナール所属の学生 13名）
柏崎市内で調査・研究・活動をする「まちづくり」や「地域活性化」を学ぶゼミの学生が、実際に柏崎でさまざまな取り組みを行っている若い経営者の話を聞き、地元就職し、地域を活性化させるための手法を学んだ。

○実施時期：令和2年12月22日

○講師等

	実施日	企業名（業種）	役職・講師名	参加者数
1	令和2年12月22（火）	「明るい柏崎計画」 （株式会社AKKプラス）	代表 竹内一公 長沢智信	13人
延べ合計数				13人

○企業の選定方法

柏崎市内の事業主が集まって新たに立ち上げた企業体という特殊性、地域課題に積極的に取り組もうとする姿勢があること、また、まちづくり関係の分野専攻の3、4年次のゼミナール活動で調査をしていた「#柏崎エール飯」という事業の企画提案者であること、コロナ禍でも挑戦する姿勢を止めていない企業であること等から、本授業の講師として適任であると考えた。

○内容

「明るい柏崎計画（株式会社AKKプラス）」は、柏崎市内の地方の問題意識を誠実にくみ取り、青年経済人の目線で、地方の抱える問題に真っ向から挑戦しようとする意思

を持った有志による任意団体からスタートし、現在株式会社AKKプラスとして活動を展開している。

今年度文化経済学科権田ゼミナール（まちづくり・地方行政分野）で調査をしていた「#柏崎エール飯」事業の企画提案者で、令和2年11月以降は運営主体として活動している（それまでは協力者として参加）。

同社はこれまで災害防災ラジオの開発などにも取り組んでおり、柏崎市内の企業が協力し、知恵を出し合って新たなビジネスを創出していくプロセスや事業主の熱い想いについてお話しいただいた。

参加学生たちが製造業等の企業であっても地域活性化やまちづくりに係る取組を行う企業の話聞くことで、株式会社AKKプラスや、その活動への参加企業への関心を深めることにつなげることができた。

○取組の様子



（3）事業効果等

実施後のアンケート（アンケート3参照）では、本取組により県内企業への関心が高まったと答えた学生は100%であった。県内企業を理解する方法として有効であるものとしては「企業経営者等による講義」「インターンシップ」が50%以上と多く、今回の講義は有意義であったようである。講義後も個別に事業主と話をする様子が見られ、県内企業への興味関心が高まったようであった。

(4) 取組の情報発信実績

本取組については SNS において掲載し、学内外への情報発信を図った。

【URL】

Twitter：まちかど研究室（新潟産業大学権田ゼミ）

<https://twitter.com/machikennsu/status/1341411626252181505>

(5) 今後の取組について

学生に魅力的な県内企業があることを知ってもらうことや、自らのキャリア観育成に有効な取組と考えているため、引き続き実施を検討したい。

③地域経済政策分野の学生のための地元企業見学

(1) 目的

県内企業の見学を通じて、企業研究・業界研究の場を提供する。また、実際に働く現場を見学することで、職業観を形成し、就職に対する意識の向上を図る。

(2) 取組概要

○対象学年・募集定員：2年生・21人

○参加学生数：2年生 20人

○実施時期：令和2年12月10日、令和2年12月17日（全2回）

13時から14時、1社当たり60分程度

○訪問先企業等

	実施日	企業名（業種）	参加者数
1	令和2年12月10日（木）	柏崎信用金庫	10
2	令和2年12月17日（木）	株式会社 植木組	14
延べ合計数			24

※参加メンバーに4人重複あり

○企業の選定方法

地域に根差して活躍する企業、かつ地域貢献に力を入れている企業、といった観点から訪問先企業を選定した。また、学生の関心が高く、OB・OGが就職しているといった点も考慮した。

○取組の様子



柏崎信用金庫見学



株式会社植木組見学

○取組内容

企業がどのような業務を行っているのか、またどのような地域貢献に取り組んでいるのか、などを知ることが主な目的とし、併せて地域活性化のヒントを求めて企業訪問を行った。

今回はコロナ感染防止のため現場見学を行える箇所が限定されたものの、企業の社員から、企業現地にて企業の詳しい説明を受けることができた。また質疑応答では、学生からの質問に幅広く答えていただいた。

訪問に際しては、ゼミを2グループに分け（感染対策のため）、グループ毎にそれぞれ1つの企業を訪問した。

【柏崎信用金庫】

柏崎信用金庫は、柏崎・刈羽地区を代表する地域金融機関であり、いわば柏崎の資金流通の司令塔といえる。担当者の方からは、信金の業務内容の説明を受けた後、事業規

模や、設立の経緯、信金の立ち位置、今後の課題など様々な観点から説明を頂いた。特に、少子高齢化のなかでの「事業承継問題」に中小企業が直面しており、その問題を信金がどのように支援するのか、といったトピック等に学生は関心を示していた。また、「柏崎市と連携」しながら信金が地域活性化のためにどのような融資を行っているのか、といったトピック等について、学生は興味深く聞いていた。

学生からは、第四北越銀行の合併に関する質問や、コロナ問題のなかでの業務の変化についての質問など、様々な質問がなされた。また、就職活動に関する質問も多く、「どのような人物を信金は求めているか」といった質問などがなされた。

見学終了後、参加した学生からは「信金の仕事が身近に感じられて良かった」といった感想が多くあり、非常に有意義な機会であった。

【株式会社植木組】

植木組は、柏崎を拠点に広く東日本一帯に展開する大手ゼネコンであり、いわば柏崎の「モノ」を扱う代表的企業である。

今年は実際に社員が業務を行う現場の見学ができなかったものの、担当者からは企業内において植木組の業務内容や沿革、近年の ICT 化や地域活性化の取り組みなど、幅広い観点から植木組について熱心に説明いただき、学生も多大な関心を持って話を聞いていた。

その中でも、植木組の地域貢献に関するテーマや、植木組飛躍のきっかけとなった長岡の長生橋建設のエピソード等に、学生は感銘を受けたようである。見学終了後には、今までイメージしづらかった「ゼネコン」の仕事が良く分かったという声が多くあった。また、学生からの質問としては、業務に関する質問に加え、就職に関する質問も多く出た。

「文系ではどのような業務になるのか」「入社までに何を身につければよいか」などの質問にも、担当者の方に丁寧にお答えいただいた。

(3) 事業効果等

今回の見学は、それぞれの企業の地域や仕事に対する情熱を感じられる機会となり、実施後のアンケート（アンケート 4 参照）では、「本取組により県内企業への関心が高まった」と答えた学生が 100%であったことから、学生にとっては今後の就職活動を考える上で大変実りの多い機会であったと考える。

(4) 今後の取組について

今回の取り組みを通じ、学生から「県内企業を身近に感じられた」、「業務内容の具体的なイメージが湧いた」などの感想が多く挙がったことから、引き続き来年度も実施を検討し、さらなる効果を上げていきたいと考えている。

また、今回の取り組みは新潟産業大学のオフィシャルアカウントのツイッターにて結果を報告・開示している（以下のアドレス参照）。情報提供という点では、来年度も工夫してさらなる発信の機会を見つけていきたいと考えている。

https://twitter.com/niigata_sandai/status/1341554707794292738

④県内中堅優良企業の見学及び講義

(1) 目的

県内企業の見学を通じて、企業研究・業界研究の場を提供する。また、実際に働く現場を見学することで、職業観を形成し、就職に対する意識の向上を図る。

(2) 取組概要

○対象学年・募集定員：1～2年生 20名

○参加学生数：1年生 各日17人、2年生 1人

○実施時期：訪問先企業よりコロナ感染対策の観点から、下記の通り、会社概要説明と会社訪問見学会を分割して実施することとなった。

①事前会社概要説明会

令和2年11月18日 15:00～16:30（於本学講義室）

②会社訪問見学会

令和2年11月25日 15:30～17:00（於先方工場等）

○訪問先企業等

	実施日	企業名（業種）	参加者数
1	令和2年11月18日(水)	(株)サイカワ 講義 講師：平田秀利氏 (総務部 総務課長)	18名
	令和2年11月25日(水)	(株)サイカワ 見学 説明者：平田秀利氏 (総務部総務課長)	18名
延べ合計数			38名

○企業の選定方法

地元柏崎市に本社を置く企業の中から、経済産業省が認定した「地域未来牽引企業」として指定を受けた企業を選定した。

○取組の様子



(講義資料)



(会社訪問風景)

○取組内容

- ① 事前会社概要説明では、製品概要、業界動向のほか、企業の沿革、伸線機のプラントメーカーとして世界トップの地位を築いた背景、要因等について、詳しく説明を受けた。また、会社訪問では、参加者を3グループに分け、実際の製品について現物での説明、工場内での生産工程に関する詳細な説明を受けた。
- ② 質疑では、「伸線機で実際に生産される製品は、具体的に我々の身近な製品にどのように利用されているのか」や「柏崎という地方にありながら、なぜ世界的な市場で製品を販売することができるのか」等の質問が活発に行われた。

(3) 事業効果等

参加した学生からは、「自分の出身地である柏崎に、世界的に活躍している企業があることを初めて知った」、「中小企業であっても、特別な技術を確立し、またユーザーの要望にきめ細かく対応することで、業界でトップの地位を築くことができるということを実感した」といった声が多くあった。また、実施後のアンケートでは、本取組により県内企業への関心が高まったと答えた学生は78%であった。(アンケート5参照)

(4) 今後の取組について

学生に魅力的な県内企業があることを知ってもらうことや、キャリア観育成に有効な取組と考えているので、引き続き実施を検討したい。

学生から「柏崎市以外の地域の地域未来牽引企業についても会社訪問し、企業の実態を詳しく知りたい」等の意見があったため、次年度実施の際には考慮したい。

情報発信について：大学広報誌「青海波」（毎年2回発行）に、取組みの概要を掲載

⑤西山ふるさと公苑見学

(1) 目的

県内企業の見学を通じて、企業研究・業界研究の場を提供する。また、実際に働く現場を見学することで、職業観を形成し、就職に対する意識の向上を図る。

(2) 取組概要

○対象学年・募集定員：1～4年生 33人

○参加学生数：1年生 1人、2年生 27人、3年生 4人、4年生 1人

○実施時期：令和3年2月9日

○訪問先企業等

	実施日	企業名（業種）	参加者数
1	令和3年2月9日（火）	西山ふるさと公苑 指定管理者：（公財）柏崎振興財団	33人
延べ合計数			33人

○企業の選定方法

今回の企業訪問は「まちづくり基礎」受講生を対象とした。文化施設である「西山ふるさと公苑」における展示内容を見学するに留まらず、指定管理者である（公財）柏崎振興財団の役割を学ぶことを主な目的とした。

本学には博物館学芸員課程が設置されており、学芸員として働くことを希望する学生が一定数いるが、現実的には極めて狭き門であり、資格は取っても直接の就職に結びつかないという課題があった。また、まちづくりや地域活性化に携わり、より公共性の高い仕事を希望する学生が、市役所を1，2カ所受験してこれもまた狭き門であるとすぐに諦め、一般企業に転向するという傾向もあった。

そこで、事前学習において近年の地域の文化施設、スポーツ施設は自治体の直営から指定管理者による管理運営に移行する傾向があることを学習し、多くの施設の管理運営を担っている法人、企業等を視野に入れると、上記のような学生の進路選択の可能性が広がるのではないかと考え、令和2年度から柏崎市の直営から指定管理となった「西山ふるさと公苑」はこうした問題意識を持って訪問するのにふさわしい施設であると考えた。

○取組の様子





○取組内容

本施設の担当者である柏崎振興財団の方の説明では、施設の設置経緯、展示内容などの紹介とともに、同法人の指定管理者としての柏崎市内での役割、実際にどのような業務を担っているかなどをお話しいただいた。

また、併設される「西遊館」は冬季閉鎖中であつたが、本授業のために開けていただき見学することができた。担当者からは、今後学生達（特に留学生）とも連携して施設を活用した企画ができるのではないかとといった話もあり、学生たちはアンケートに施設の活用方法等のアイデアを積極的に記入していた。

（3）事業効果等

実施後のアンケート（アンケート 6 参照）では、本取組により県内企業への関心が高まったと答えた学生は 84.8%であつた。県内出身者が 72.7%であつたため、県外出身者及び留学生についても県内企業への関心が高まった学生がいたことが分かる。県内企業を理解する方法として有効だと思うものは「企業見学」が 66.7%で最も多かった。

なお、今回は、施設見学と併せて、管理者である柏崎振興財団の職員の方から、本施設以外にもこれまでに担当した施設の話など企業説明会などではなかなか聞くことのできない貴重な話も伺うことができ、学生たちのキャリアイメージを広げる機会となったと考える。

（4）取組の情報発信実績

本取組については SNS において掲載し、学内外への情報発信を図った。

【URL】

Twitter : NSU 学生広報

https://twitter.com/NSU_gakuseikoho/status/1359081192910278659

（5）今後の取組について

学生に魅力的な県内企業があることを知ってもらうことや、キャリア観育成に有効な取組と考えているので、引き続き実施を検討したい。

3. 「ビジネス演習」

(1) 目的

県内の公的金融機関等から講師を招いた特別講義等を学内で開催し、起業に関するノウハウ、各種業種に関する県内の現状や動向、起業に関する各種公的支援制度等についてお話いただくことで、学生の県内における産業動向の理解を促すとともに、これを踏まえたビジネスプランの作成を通じて県内での起業に関する意欲を高める。

(2) 取組概要

○開催方式：後期授業「ビジネス演習」における第8回授業（特別講義）、第15回授業（ビジネスプラン発表の審査講評）として実施

○参加学生数：2年生 11人

○実施時期：第8回授業 令和2年11月11日 13:15～14:45

第15回授業 令和3年1月27日 同上

(全2回)

○講師等

	実施日	企業名（業種）	役職・講師名	参加者数
1	令和2年11月11日（水）	日本政策金融公庫 長岡支店	融資課長 工藤秀利	10名
2	令和3年1月27日（水）	日本政策金融公庫 長岡支店 柏崎市中小企業相談所	支店長 横田剛 所長 阿部一昭	7名
延べ合計数				17名

○講師の選定方法

県内の各種産業動向等、および中小企業の起業ノウハウ、起業に関する支援制度に関し、専門的知識を有することを条件に上記2名を選定した。

○内容

①第8回授業（令和2年11月11日）

日本政策金融公庫長岡支店融資課長工藤英利氏より、県内の主要業種の現状や動向、県内外における起業の具体事例、ビジネスプラン作成時のポイント、起業に関する各種支援制度について詳細な説明が行われた。

②第15回授業（令和3年1月27日）

「ビジネス演習」受講生の作成した全10件のビジネスプランの中から、事前を選定した4件について、プレゼンテーションを実施し、2名の講師との質疑応答を実施した（各発表； 発表10分、質疑5分 計15分）。その後、講師の合議により、最優秀賞、アイデア賞、優秀賞（2件）を決定し、各講師より、全体の講評を頂いた。

○取組の様子



(ビジネスプランの発表学生と講師) (ビジネスプランを発表風景)

(3) 事業効果等

実施後のアンケートでは、本取組により県内産業・企業への関心が高まったと答えた学生は71%であり、県内の産業動向等について専門的知識を有している方から直接お話を聞くことは有効な取組である。(アンケート7参照)

学生からは、「県内での飲食店やアパレル等物品販売業の動向について知識が深まった」「実際に県内で起業する際のビジネスプランのポイントや、各種の支援制度について理解ができた」「起業は、東京や大阪など大都市でのことだと思っていたが、意外と身近な場所に起業のシーズがあることが分かった」「色々な支援制度があり、若者が起業することに世の中が強く期待していることが分かった」といった感想があり、県内産業や、県内での起業への関心が高まったようであった。

(4) 取組の情報発信実績

本取組については、大学ホームページに掲載し、学内外への情報発信を図った。

【URL】HP：<https://www.nsu.ac.jp/11282/>

(5) 今後の取組について

学生にとって、身近な飲食業、アパレル物品販売業等の県内産業の現状や動向を知り、その上で、自身の地元地域での起業を行うには、どのような課題があり、支援制度が利用可能か、また、具体的な起業プランのポイントはどのような点であるかを具体的に、実践的に知る上で、外部専門家による講義等は、大変有益であったと考える。引き続き実施を検討したい。

学生から「専門家だけではなく、実際に起業した経験をもつ経営者の実体験を聞きたい」等の意見があったため、次年度実施の際には考慮したい。

4. 県内企業に就職した卒業生との懇談会

(1) 目的

県内企業で働く卒業生から、在学時の就職活動や入社後の現在に至るまでの体験談を聞き、県内企業への就職に対する情報発信と魅力を伝え、地元企業への就職への関

心を高めることを目的とする。特に就職活動を控える３年生に対して、比較的年齢の近い若手社員である卒業生から社会人の視点で振り返った中で、就職活動のアドバイスをもらうことにより、就職活動をより現実的なものとして理解することを促進する。

(2) 取組概要

○対象学年：キャリアデザインⅢ（３年次配当科目） 履修者 21 名

○参加学生数：３年生 19 名

○実施時期：令和２年 11 月 16 日（火） 10：55～12：25（本学２限）

○講師等：授業担当教員 橋本康正（本学非常勤講師）、パネリストは下記の 5 名。

	実施日	企業名（業種）	講師名（卒業年度）	参加者数
1	令和２年 11 月 16 日（月）	スズキ自販新潟㈱ （自動車小売業）	石津 慶氏 （2013 年度卒）	19 名
2		㈱サンカ（製造業）	進藤 真彩氏 （2018 年度卒）	
3		コニカミノルタ ＮＣ ㈱ （卸売業）	渡邊 有紀氏 （2018 年度卒）	
4		㈱ホテルセンチュリーイ カヤ（宿泊業）	宮川 浩一郎氏 （2017 年度卒）	
5		アクシアル リテイリン グ㈱（小売業）	小林 純希氏 （2017 年度卒）	

○企業の選定方法

過去５年間で本学からの就職実績のある県内企業の中から、在学生の関心の高い業種・企業を選定した。また、講師の選定にあたっては、在学中に課外活動やサークル活動に熱心であったことも考慮して依頼した。

○内容

パネリストの方々には、①現在の業務の内容ややりがい、②仕事の魅力、③社会人になって気づいたこと、④職業選択をする上で必要なこと、⑤学生時代の就職活動の振り返り、⑥学生時代の過ごし方などを伺い、学生からの質疑応答に答える形で進めた。

学生からは、「職業を選ぶ際の優先順位について」「就活の進め方」や「仕事上で一番厳しいと感じたことは何か」、「現在の企業で就活を終えようと思った理由」など、学生時代に進路を選ぶ過程についての質問が多かった。パネリストの回答に対しては、「社会人としての意識の高さを感じた」「行きたい業種を早期に絞って納得するまで就活を続けることが大切だとわかった」「職業選択の幅を広げる機会になった」といった声が聞かれた。

○パネルディスカッションの様子



(3) 事業効果等（アンケート 8 参照）

実施後のアンケートでは、本取組により県内企業への関心が高まったと答えた学生は 100%であり、実際に社会人として活躍している卒業生の方から直接お話を聞くことで県内企業の魅力は十分伝えられたと考えられる。

また、県内企業を理解する方法としては、「インターンシップ」(15 名) が最も多く、次に「企業見学」(10 名) が続いたことから、コロナ禍であっても対面での企業との接点を「効果的」と考えている学生が多いことが分かった。

一方、就職先の優先順位については、「業種・職種」がトップ (13 名) で、希望する仕事自体の優先度が高くなっており、次に「企業の将来性」(11 名) をあげた学生が多かった。今回のパネルディスカッションを通して、「仕事の本質」や「入社後の自分」をイメージする傾向が高まったことが考えられる。

また、参加者の感想で挙げた感想では、「学生に近い目線での話は分かりやすかった」「新潟県内のいろいろな職種を知ることができて良かった」など、在学生にとって親しみやすい人選をしたことが、企業理解や県内企業への関心をあげることに繋がっていると考える。

(4) 今後の取組について

アンケート結果から、県内企業の魅力は十分学生に届いていると考える。また、年齢の大きく離れていない卒業生からの助言やアドバイスは、在学生の「職業観」や就職に対する意識を変えるだけの刺激となっており、今後もこの取り組みはぜひ継続していきたい。

また、企業見学やバスツアーも有効な手段と考えるが、今年度はコロナ禍の中で、企業

への大人数での移動は回避せざるを得なかった。収束後には、インターンシップ受け入れ企業の確保や企業見学の復活を視野にいて、一層県内企業の魅力をアピールする機会を提供したい。新型コロナの収束の目途が立たない場合には、オンラインでのパネルディスカッションも視野に入れ、企業側との連絡調整と通信環境の整備を前提に実施を検討していくこととする。

今年度は、3年生に対し、若手社員の卒業生とのパネルディスカッションだったが、次年度以降は、就活本番を控える3年生には、企業の人事担当者や経営者を招聘してのパネルディスカッションを計画し、企業が求める社会人像や、大学時代に養っておくべきことなどをテーマに討論することで、一層身近に「就職活動」を捉えることができるよう実施案を策定していきたい。

取組の情報発信について：大学公式ツイッター

https://twitter.com/niigata_sandai/status/1328517440100130816